

K O R G D I G I T A L P I A N O
コルグ デジタル・ピアノ

DK-450

取扱説明書

このたびは、コルグ・デジタル・ピアノ DK-450 を
お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明
書をよくお読みになって、正しい方法でご使用くだ
さい。

KORG

安全上のご注意




ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人以上で行ってください。小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- ACアダプターの電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ACアダプターの電源コードのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。

感電やショート恐れがあります。

- 本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源コードのプラグが容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターの電源コードのプラグをコンセントから抜く。

- 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき
- 修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。



- 製品を分解したり改造したりしない。



- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。

- ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものを乗せない。コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。

大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。

- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。

- 振動の多い場所で使用や保管はしない。

- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。

- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。

- ラジオ、テレビ、携帯電話、電子機器などから十分に離して使用する。

ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。

本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。

- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ACアダプターの電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
- 本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。



• 長時間使用しないときは、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜く。



• 付属のACアダプターは他の電気機器で使用しない。

付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。

- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしていない。

本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。

- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。

- 不安定な場所に置かない。

本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。

本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

- 本製品の隙間に指などを入れない。
お客様がけがをしたり、本製品が損傷する原因となります。

- 地震時は本製品に近づかない。

- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。



• キーカバーまたは譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。

付属のスタンドについて



- 取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のイスについて



- ピアノの演奏用にのみ使用する。
イスで遊んだり、イスを踏み台等に使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。



- 2人以上で腰掛けない。
付属のイスは1人用です。

データについて

本製品の電源をオフにすると、全てのパラメータが工場出荷時の設定に戻ります。

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書の表記について

本体のスイッチ類は [] で括弧しています。

は使用上の注意を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

* MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

* すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに.....	6
おもな特長	6
各部の名称とその機能	7
フロント・パネル	7
底面接続端子.....	8
準備とデモ・ソング.....	9
演奏する前の準備.....	9
デモ・ソングの演奏を聴いてみましょう	12
弾いてみましょう	15
音色を選ぶ (シングル・モード)	15
2つの音色を重ねて演奏する (レイヤー・モード)	16
エフェクト (リバーブとコーラス).....	17
ペダルを使う.....	18
メトロノーム.....	18
他の機能.....	22
鍵盤タッチ・コントロールの設定	22
トランスポーズ	22
ピッチ・コントロール	23
音律を選ぶ	24
MIDI	25
MIDI (ミディ) とは?	25
MIDI でなにができるの?	25
MIDI の接続.....	25
MIDI の基本設定	25
MIDI チャンネルの変更	25

マルチ・ティンバー音源として使う	26
ローカル・オン / オフ	26
プログラム・チェンジ	26
コントロール・チェンジ	27
MIDI データ・ダンプ	27
付録	29
故障かな?とお思いになる前に	29
仕様	30
[サウンド] スイッチ機能一覧図	31
鍵盤機能一覧図	31
スタンドの組み立て方	32

はじめに

おもな特長

30 種類の高品位サウンド

ステレオ・コンサート・グランドピアノを含む、表現力豊かな高品質の音色を、30 種類内蔵しています。また、同時に 2 つの音を重ねて演奏できるレイヤー・モードも搭載しています。

エフェクト

コンサート・ホールの自然な雰囲気シミュレーションすることができるリバーブと、音の広がりを加えることができるコーラスの、2 つのエフェクトを搭載しています。

ペダル効果

アコースティック・ピアノと同様に 3 つのペダルがあり、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフトの効果が得られます。ダンパー・ペダルは、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。ダンパー・ペダルとソフト・ペダルは、ペダルを踏む深さで効果のかかり方を調整できます（ハーフ・ペダル機能）。

メトロノーム

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

タッチ・コントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3 種類の中から選択できます。

音律

平均律の他に、2 種類の古典音律（キルンベルガー、ヴェルクマイスター）を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。また、音色にアコースティック・ピアノを選んだときは、ストレッチ・チューニングが自動的に選ばれます。

音の高さの調節

トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により音の高さの微調整を行うことができます。

2 つのヘッドホン端子

2 つのヘッドホン端子を装備しているため、2 人で演奏を楽しむことができます。

INPUT、OUTPUT 端子

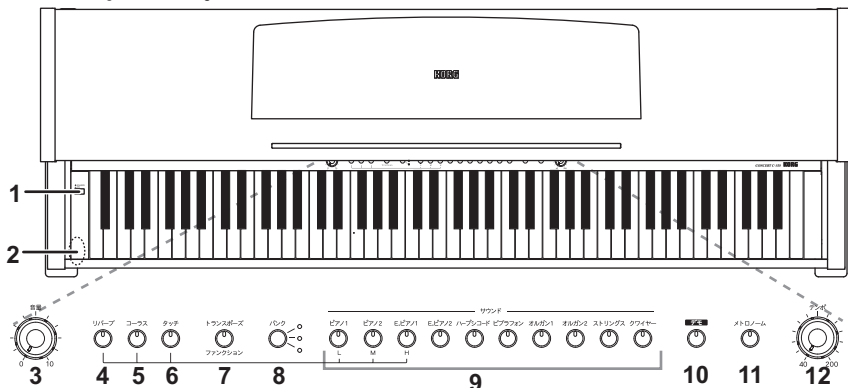
音響機器や他の電子楽器などの音声出力を、INPUT 端子に接続することで、本機のスピーカーで聞くことができます。また、OUTPUT 端子を使って、アンプ付きスピーカーや録音機器などに接続することもできます。

MIDI の装備

電子楽器やコンピューターの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格 MIDI を装備しています。MIDI を使うと、接続した機器間で相互にコントロールすることができ、本機を 16 パート・マルチティンバー音源としても使用することができます。

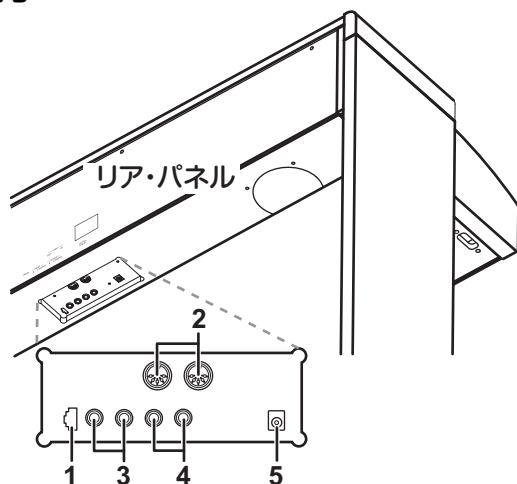
各部の名称とその機能

フロント・パネル



1. **パワー・スイッチ**:電源のオン(ON)とオフ(STANDBY)を切り替えます。
2. **ヘッドホン端子(本体底面)**: 標準プラグのヘッドホンを、2 つまで接続することができます。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーからは音が出ません。
3. **[音量]ツマミ**:内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、およびアウトプット端子からの音量をコントロールします。
4. **[リバーブ]スイッチ**:音に残響を加えるリバーブをオン、オフします。
5. **[コーラス]スイッチ**:音に広がりを与えるコーラスをオン、オフします。
6. **[タッチ]スイッチ**:鍵盤のタッチ(感度)を選びます。
7. **[トランスポーズ / ファンクション]スイッチ**:移調、ピッチ、音律やMIDIに関する設定等に使います。
8. **[バンク]スイッチ**:使用する音色を3つのバンクの中から選びます。
9. **[サウンド]スイッチ**:30(10 × 3バンク)音色から選択します。同時に2つの音色で演奏(レイヤー・モード)することもできます。
10. **[デモ]スイッチ**:デモ・ソングを演奏します。[サウンド]スイッチで30(10 × 3グループ)のデモ・ソングを選ぶことができます。
11. **[メトロノーム]スイッチ**:メトロノームをスタート、ストップします。
12. **[テンポ]ツマミ**:メトロノームのテンポを調節します。

底面接続端子



1. **[PEDAL]端子**：付属のスタンドのペダル・コードを接続します。
2. **[MIDI(IN,OUT)]端子**：他のMIDI機器（シーケンサー、キーボードなど）を接続するときに使用します。
IN：MIDI 情報を受信します（本機をコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI OUT と接続します）。
OUT：MIDI 情報を送信します（本機からコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI IN と接続します）。
3. **[INPUT(L/MONO,R)]端子**：音声の入力端子です。音響機器や他の電子楽器等の音声出力(AUX OUT)に接続してください。
モノラル入力で使用するときは[L/MONO]に接続してください。
入力音量は接続した機器側で調整してください。
4. **[OUTPUT(L/MONO,R)]端子**：音声の出力端子です。アンプ付きスピーカーの入力端子や音響機器の AUX IN などに接続してください。
モノラル出力で使用するときは[L/MONO]に接続してください。
出力端子の出力は[音量]ツマミで調整してください。
5. **[DC 18V]端子**：付属の AC アダプターの DC プラグを接続します。

準備とデモ・ソング

演奏する前の準備

ACアダプターの接続

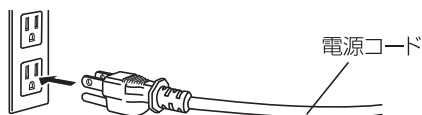
1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2. AC アダプターのコードが、「スタンドの組み立て方」に従って接続されていることを確認してください。
3. ACアダプター用電源コードのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行って、コンセントに接続してください。

 電源は必ず AC100V を使用してください。

接地極付きコンセントに接続する場合

接地極付きコンセントに AC アダプター用電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。

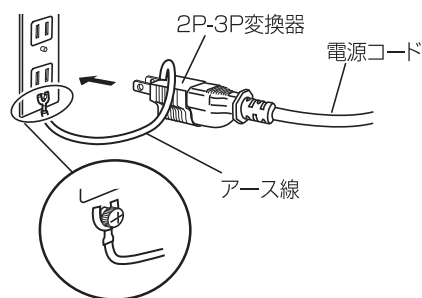
接地極付きコンセント




アースターミナル付きコンセントに接続する場合

AC アダプター用電源コードのプラグに、2P-3P 変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P 変換器のプラグを差し込みます。

アース端子付きコンセント



 アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

2P-3P 変換器のアース線の U 字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずして使用してください。

キー・カバーを開ける

キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの手前のへりを両手で持ち上げて、静かに開けてください。

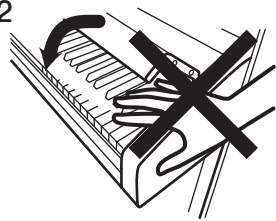
キー・カバーを閉めるときは、手前のへりを持ち、静かに閉めてください。

閉めるときは、途中からゆっくりと閉まる構造になっていますので、無理に閉めないでください。(図1)

図1



図2



- ▲ キー・カバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。(図2)
- ▲ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になります。
- ▲ キー・カバーの開閉時は、キー・カバーの上に紙やコインなどがいないことを確認してください。本体の中に入り込み、故障の原因になります。
- ▲ キーカバーの閉まる時間は、ご使用になる周囲の温度や湿度により若干変化します。

ヘッドホンを使うときは

ステレオ・ヘッドホンは、標準プラグのものをお使いください。または、ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンもご使用になれます。どちらも、ヘッドホンを抜き差しするときは、プラグまたは変換プラグを持って行ってください。

本体底面の左側手前にあるヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを差し込むと、本機のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

- ▲ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

電源を入れる

パワー・スイッチを押して、本体の電源をオンにします。

電源を入れると、フロント・パネルの[サウンド]や[バンク]スイッチのランプが点灯します。

オフにするときは、もう一度パワー・スイッチを押してください。

- ▲ 電源をオフにすると、すべて工場出荷時の設定に戻ります。

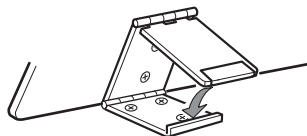
音量の調節

[音量]ツマミを動かして音量を調整します。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、および出力端子の音量を調整できます。

- ▲ [音量]ツマミは0の位置から徐々に音量を上げてください。

譜面立てを使う

譜面立てを起こし、裏面にある 2 つのストッパーを使って、倒れないように固定します。



入力、出力端子の使い方

入力端子は、他の楽器や音響機器の音声出力を本機のスピーカーで聞くときに使用します。

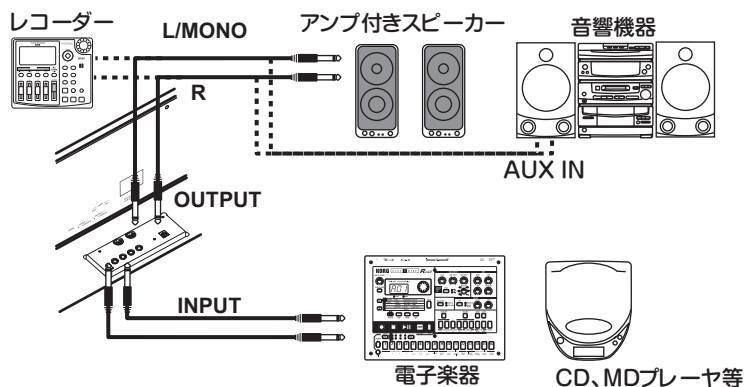
他の楽器や音響機器等のAUX OUT端子に、シグナル・コードを差し込み接続してください。モノラルで接続するときは、[L/MONO]側に接続してください。

出力端子は、内蔵スピーカー以外の音響機器で演奏を聞くときや、録音機材に録音するときに使用します。

アンプ付きスピーカーや音響、録音機器等のINPUT端子に、シグナル・コードを差し込み接続してください。

モノラルで接続するときは、[L/MONO]側に接続してください。

- ⚠ 各接続は必ず電源オフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器等を破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。



- ⚠ 接続するシグナル・コードは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

デモ・ソングの演奏を聴いてみましょう

本機には、3つ(1、2、3)のグループにそれぞれ10、合計30のデモ・ソングが入っています。デモ・ソングの演奏を聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

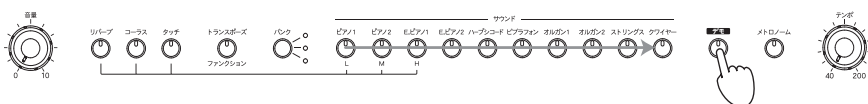
[サウンド]スイッチ	グループ1	グループ2	グループ3
[ピアノ1]	(1) F.メンデルスゾーン プレリュード Op.104a-2	KORG オリジナル※ Reflection	C.ドビュッシー アラベスク第1番
[ピアノ2]	(2) F.ショパン ノクターン Op.9-2	S.ジョブリン ザ・エンターテイナー	J.S.バッハ 2声のインベンション No.13
[E.ピアノ1]	(3) C.ドビュッシー 月の光	KORG オリジナル※ Jumper	F.ショパン 幻想即興曲 Op.66
[E.ピアノ2]	(4) KORG オリジナル Lullaby for a Little Star	KORG オリジナル※ All the Ones You Don't Know	J.S.バッハ プレリュード (平均律第1番より)
[ハープシコード]	(5) L.v. ベートーヴェン エリーゼのために	J.S. バッハ イタリア協奏曲	KORG オリジナル Rubber Bob
[ピブラフォン]	(6) F.ショパン 別れの曲 Op.10-3	KORG オリジナル※ Jazz in Spain	R.シューマン トロイメライ Op.15-7
[オルガン1]	(7) W.A. モーツァルト ソナタ K.331 第3楽章 「トルコ行進曲」	KORG オリジナル※ Cool "B"	F.メンデルスゾーン 春の歌 Op.62-6
[オルガン2]	(8) F.ショパン ワルツ 第6番 変二長調「小 犬」Op.64-1	F.メンデルスゾーン ウェディングマーチ	KORG オリジナル※ Sunflowers
[ストリングス]	(9) KORG オリジナル※ Old Feather Blues	J.S. バッハ G線上のアリア	P.D. パラディーシ トッカータ 長調
[クワイヤー]	(10) KORG オリジナル※ Noise of Time	KORG オリジナル※ Voice Texture	KORG オリジナル※ Wet Raccoon Rag

※ KORG オリジナル 作曲/演奏: M.Tempia (デモ・ソングの楽譜は提供していません。)

すべてのデモ・ソングを演奏する

ワンタッチですべてのデモ・ソングの演奏を聴くことができます。

1. [デモ]スイッチを押してください。[サウンド]スイッチのランプが左から右に順番に点滅します。



約3秒後、デモ・ソングのグループ1-1から順番に演奏を開始します。グループ3-10の演奏が終わると、再びグループ1-1から演奏を続けます。

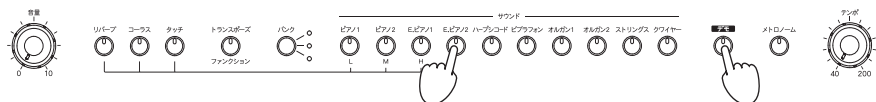
note [デモ] スイッチを押さなくても、[トランスポーズ / ファンクション] スイッチを押しながら E1 の鍵盤を押すと、すぐに演奏を開始します。

2. 演奏しているときに、そのグループ内の他のデモ・ソングに切り替えるときは、そのデモ・ソングが割り当てられている[サウンド]スイッチを押してください。たとえば、デモ・ソング 1 が演奏されているときに、デモ・ソング 10 に切り替えたいときは、[サウンド]スイッチの[クワイヤー]を押してください。デモ・ソングの演奏は、10 に切り替わり順番に演奏を続けます。
3. 演奏を止めるときは[デモ]スイッチを押してください。

特定のデモ・ソングを演奏する

聴きたいデモ・ソングから演奏をはじめることができます。

1. 最初に聴きたいデモ・ソングのグループを選んでください。
 - ・グループ 1 を選ぶには、[デモ]スイッチを一回押してください。
[サウンド]スイッチのランプが、左から右に順番に点滅します。
 - ・グループ 2 を選ぶには、[デモ]スイッチを二回押してください。
[サウンド]スイッチのランプが同時に点滅します。
 - ・グループ 3 を選ぶには、[デモ]スイッチを三回押してください。
隣り合った[サウンド]スイッチのランプが交互に点滅します。
2. 選んだグループのなかで、聴きたいデモ・ソングが割り振られた[サウンド]スイッチを押してください。



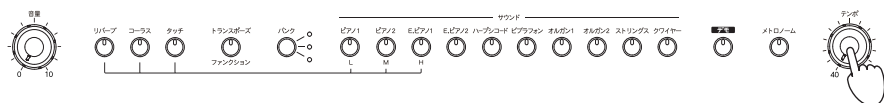
! 曲を選ばないまま約 3 秒たったときは、自動的にデモ・ソングのグループ 1-1 からグループ 3-10 の順番で繰り返し演奏します。

選んだデモ・ソングの演奏が終わると、そのグループのデモ・ソングが順番に繰り返し演奏されます。

3. 演奏を止めるときは[デモ]スイッチを押してください。
 - !** デモ・ソングの演奏中に鍵盤を弾いて音色を出すことはできますが、[サウンド]スイッチで本機の音色を変えることはできません。
 - !** デモ・ソングの演奏中はエフェクト(リバース、コーラス)の設定を変えることはできません。

デモ・ソングの演奏のテンポを調整する

[テンポ] ツマミを使ってデモ・ソングのテンポを調節することができます。ただし、デモ・ソングのテンポは、[テンポ] ツマミの目盛りと一致しません。



- ▲ デモ・ソングが切り替わると、その曲のオリジナル・テンポに戻ります。
- ▲ デモ・ソングの演奏中は、メトロノームを使えません。

弾いてみましょう

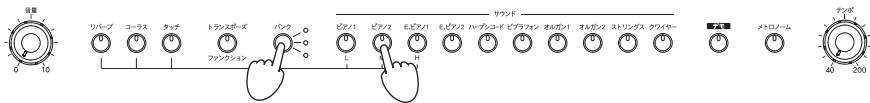
音色を選ぶ(シングル・モード)

本機は高品位な音色を 30(10 × 3 バンク)種類の中から選ぶことができます。

[サウンド] スイッチ	バンク 1 (上のランプ点灯)	#	バンク 2 (中間のランプ点灯)	#	バンク 3 (下のランプ点灯)	#
[ピアノ 1]	グランド・ピアノ	2	ブライト・ピアノ	2	メロー・ピアノ	2
[ピアノ 2]	ホンキートンク・ピアノ	2	デチューン・ピアノ	2	エレクトリック・グランド・ピアノ	1
[E. ピアノ 1]	クラブ・エレクトリック・ピアノ	2	ステージ・エレクトリック・ピアノ	1	シン・エレクトリック・ピアノ	2
[E. ピアノ 2]	80's エレクトリック・ピアノ	2	デジタル・エレクトリック・ピアノ	1	ヴィンテージ・エレクトリック・ピアノ	1
[ハーブシコード]	ハーブシコード	1	クラビ	1	ワウ・クラビ	1
[ビブラフォン]	ビブラフォン	1	マリンバ	1	アコースティック・ギター	1
[オルガン 1]	ジャズ・オルガン 1	2	ジャズ・オルガン 2	2	ジャズ・オルガン 3	2
[オルガン 2]	チャーチ・オルガン 1	3	チャーチ・オルガン 2	1	チャーチ・オルガン 3	1
[ストリングス]	スロー・ストリングス	2	ウォーム・パッド	2	ストリングス	1
[クワイヤー]	クワイヤーHoo	1	クワイヤーDoo	2	クワイヤー・パッド	2

※ # は、音色が使用しているオシレーターの数です (p.29「最大発音数について」参照)

- 弾きたい音色の[サウンド]スイッチを 1 つ選びます。選んだスイッチのランプが点灯します。
- [バンク]スイッチを押して 3 種類の中から音色を選びます。
押すたびに[バンク]スイッチの右のランプが上から順に点灯し、1、2、3、1... とバンク(音色)が切り替わります。



たとえば、エレクトリック・グランド・ピアノの音色を選ぶには、[サウンド]スイッチの[ピアノ 2]を押してスイッチのランプを点灯させます。

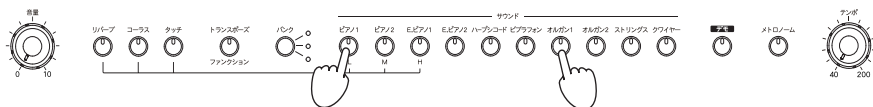
そのあと [バンク] スイッチを 2 回押してバンク 3 (エレクトリック・グランド・ピアノ) を選び [バンク] スイッチの右下のランプを点灯させます。

なお、バンクは選び直すたびに、それぞれの [サウンド] スイッチに記憶されます。

⚡ 電源をオンにするたびに、各[サウンド]スイッチにはバンクは 1 が選択されます。

2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー・モード)

2つの音色を重ねた音で演奏することができます。これを、レイヤー・モードと呼びます。重ねる音色の[サウンド]スイッチを2つ同時に押してください。選ばれた2つの音色のスイッチのランプが点灯します。



バンクを変えた音色を使うときは、シングル・モードで各[サウンド]スイッチを押したときのバンク(音色)を前もって選んでください。

たとえば、グランド・ピアノとジャズ・オルガン2の音色を重ねて演奏するときは、[ピアノ 1]にはバンク 1(グランド・ピアノ)を、また[オルガン 1]にはバンク 2(ジャズ・オルガン 2)を選んだ後、両方のスイッチを同時に押してください。

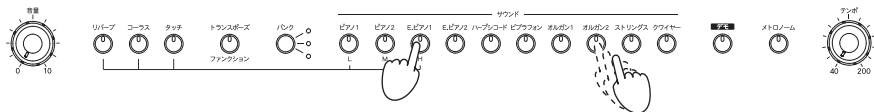
- ▲ レイヤー・モードを選ぶと、選んだ音色のオシレーター数によって同時発音数が制限されます(p.29「最大発音数について」参照)。
- ▲ 同じ[サウンド]スイッチに割り振られた音色([ピアノ 1]のグランド・ピアノとブライト・ピアノなど)を選ぶことはできません。

シングル・モードに戻るには

[サウンド]スイッチで1つだけ音色を選ぶとシングル・モードに戻ります。

レイヤー・モードで音のバランスを調節するには

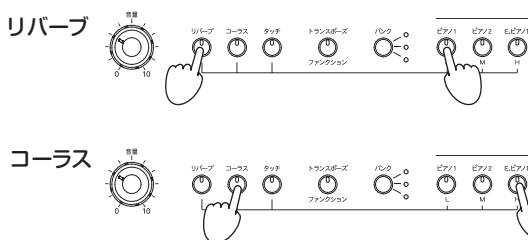
レイヤー・モードで音のバランスを調節するために、重ねる音色の[サウンド]スイッチを2つ押してください。このとき、音量を小さくしたい側の[サウンド]スイッチを押しながら、音量を大きくしたい側の[サウンド]スイッチを何度か押して音量を調整します。



- ▲ 電源をオフにするとレイヤー・モードの設定は消去されます。レイヤー・モードの設定はデータ・ダンプ機能(p.27「MIDI データ・ダンプ」参照)で保存することができます。

エフェクト(リバーブとコーラス)

本機は、リバーブとコーラスの2つのエフェクトを内蔵しています。



リバーブは、音に残響と深みを加え、コンサート・ホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。

コーラスは、音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。

エフェクトの設定は音色を切り替えても記憶されています。

▲ レイヤー・モードのときは、シングル・モードで最後に選んだエフェクトの設定が記憶されます。また、レイヤー・モードでエフェクトの設定に変更を加えても、シングル・モードに戻ると元の設定に戻ります。

▲ リバーブを使用すると、最大同時発音数が 10 少なくなります。また、コーラスを使用すると最大同時発音数が 3 少なくなります (p.29「最大発音数について」参照)。

▲ 電源をオフにするとエフェクトの設定は工場出荷時設定に戻ります。エフェクトの設定はデータ・ダンプ機能で保存することができます (p.27「MIDI データ・ダンプ」参照)。

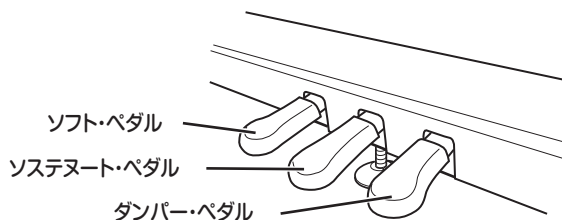
1. リバーブをオンにするときは[リバーブ]スイッチを、コーラスをオンにするときは[コーラス]スイッチを押してください。それぞれのスイッチのランプが点灯します。
2. リバーブやコーラス効果の設定を変えるときは、[リバーブ]または、[コーラス]スイッチを押しながら、[サウンド]スイッチの[ピアノ 1] (L)、[ピアノ 2] (M)、[E. ピアノ 1] (H)のいずれかのスイッチを押します。

[サウンド]スイッチ	リバーブ効果の設定	コーラス効果の設定
[ピアノ 1] (L)	浅い	浅い
[ピアノ 2] (M)	標準	標準
[E. ピアノ 1] (H)	深い	深い

3. [リバーブ]スイッチを押しているときは、選ばれているリバーブの設定が、また[コーラス]スイッチを押しているときは選ばれているコーラスの設定が[サウンド]スイッチ([ピアノ 1]、[ピアノ 2]、[E. ピアノ 1])のランプの点灯で確認できます。
4. リバーブをオフにするときは[リバーブ]スイッチを、またコーラスをオフにするときは[コーラス]スイッチを押してください。それぞれのスイッチのランプが消灯します。

ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能をもったペダルがあります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。



ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さで、ダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

ソステヌート・ペダル

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに、押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対しては、ダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで、音のやわらかさを変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

レイヤー時にペダルを使う

レイヤー機能時に、ダンパー・ペダルの効果をかける音色を選ぶことができます。

1. [トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。
ダンパー・ペダルを踏むたびに、効果をかける音色が変わります。
このとき、選択した[サウンド]スイッチのランプの点灯で、どの音色に効果をかけているか確認することができます。
2. 設定が終わったら、[トランスポーズ / ファンクション]スイッチから手を離してください。

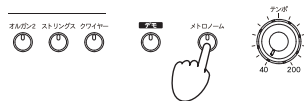
▲ 電源をオフにすると、両方の音色にダンパー・ペダルが効く設定になります。

メトロノーム

練習に便利な拍子やテンポなどをかえることができるメトロノームを内蔵しています。

メトロノームのオン、オフ

[メトロノーム]スイッチを押すと、スイッチのランプが点灯し、[テンポ]ツマミの位置のテンポでメトロノームがスタートします。メトロノームを止めるときは、もう一度[メトロノーム]スイッチを押してランプを消灯します。

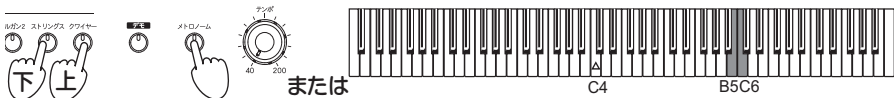


メトロノームの音量を調節する

メトロノームの音量を下げるときは、[メトロノーム]のスイッチを押しながら[サウンド]スイッチの[ストリングス] (または B5 の鍵盤) を何度か押してください。

音量を上げるときは [メトロノーム] スwitchを押しながら [サウンド] スwitchの [クワイヤー] (または C6 の鍵盤) を何度か押してください。

音量を標準に戻すときは、[メトロノーム] スwitchを押しながら、[ストリングス] と [クワイヤー] スwitch (または B5 と C6 の鍵盤) を同時に押してください。



スイッチ(鍵盤)	設定
[ストリングス] (B5)	音量を下げる
[クワイヤー] (C6)	音量を上げる

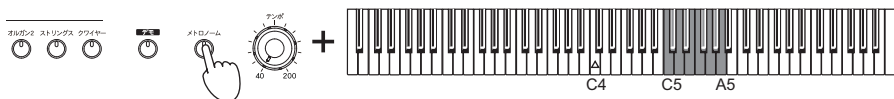
テンポの調整

テンポは ♩ = 40 ~ 200 の範囲で [テンポ] ツマミや鍵盤で数値を入力し、調節することができます。

テンポの数値入力

[テンポ] ツマミでおおよそのテンポを設定することはできますが、正確に数値でテンポ値を設定するには鍵盤を使います。

- [メトロノーム] スwitchを押し続けてください。
- 対応する C5 ~ A5 の鍵盤を押して 3 桁の数字でテンポを指定します。2 桁の数字のときには、まず 0 を選んでください。



鍵盤	数字	鍵盤	数字	鍵盤	数字	鍵盤	数字	鍵盤	数字
C5	0	D5	2	E5	4	F#5	6	G#5	8
C#5	1	D#5	3	F5	5	G5	7	A5	9

例 1:

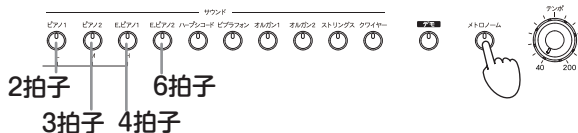
テンポを 168 にするには[メトロノーム]スイッチを押しながら、C#5(1)、F#5(6)、G#5(8)の順に鍵盤を押します。

例 2:

テンポを 85 にするには[メトロノーム]スイッチを押しながら、C5(0)、G#5(8)、F5(5)の順に鍵盤を押します。

拍子の設定

小節の 1 拍めにアクセント音が入ります。



[サウンド]スイッチ	拍子
[ピアノ 1]	2 拍子 (2/4, 2/8...)
[ピアノ 2]	3 拍子 (3/4, 3/8...)
[E. ピアノ 1]	4 拍子 (4/4, 4/8...)
[E. ピアノ 2]	6 拍子 (6/4, 6/8...)

1. [メトロノーム]スイッチを押しながら、設定する拍子に対応した[サウンド]スイッチを押します。小節の最初にアクセント音が入ります。
2. アクセント音を消すには[メトロノーム]スイッチを押したときに、スイッチのランプが点灯した拍子の設定の[サウンド]スイッチを押して拍子選択無しの状態にしてください。

[メトロノーム] スイッチを押しているときは、選ばれている拍子の設定が [サウンド] スイッチのボタンの点灯で確認できます。

- ▲ 拍子(アクセント音)無しに設定できるのは、アクセント音が標準のときだけです。
- ▲ 電源をオフにすると拍子(アクセント音)無しの設定になります。

アクセント音の選択


1. [メトロノーム]スイッチを押しながら、[サウンド]スイッチの[ビブラフォン]を押してください。アクセント音はベル音になり[ビブラフォン]の上のランプが点灯します。

2. 標準のアクセント音に戻すときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら、[サウンド]スイッチの[ハーブシコード]を押してください。このとき[ハーブシコード]のスイッチのランプが点灯します。



[サウンド]スイッチ	アクセント音
[ハーブシコード]	標準
[ビブラフォン]	ベル

[メトロノーム] スイッチを押しているときは、選ばれているアクセント音（標準、ベル）の設定が [サウンド] スイッチのランプの点灯で確認できます。

 電源をオフにすると標準のアクセント音の設定になります。

他の機能

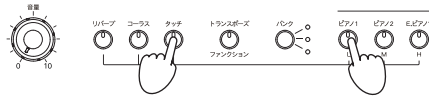
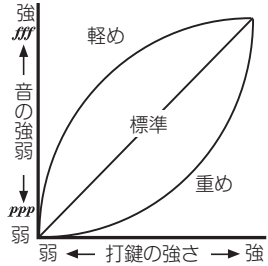
鍵盤タッチ・コントロールの設定

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。

設定を変えるときは、[タッチ]スイッチを押しながら、[サウンド]スイッチの[ピアノ 1] (L)、[ピアノ 2] (M)、[E. ピアノ 1] (H)のいずれかのスイッチを押します。

軽め、または重めが選ばれているときは[タッチ]スイッチのランプが点灯します。

[トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら、B3、C4、D4 の鍵盤を押して切り替えることもできます。



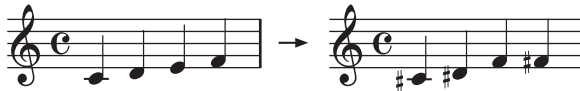
[サウンド]スイッチ	鍵盤	タッチコントロールの設定
[ピアノ 1] (L)	B3	軽め、弱く弾いても強音が出せるタッチ
[ピアノ 2] (M)	C4	標準、普通のピアノ・タッチ
[E. ピアノ 1] (H)	D4	重め、強く弾かないと強音が出せないタッチ

[タッチ]スイッチを押しているときは、選ばれているタッチ・コントロールの設定が[サウンド]スイッチのランプの点灯で確認できます。

⚠ 電源をオフにすると標準の設定に戻ります。

トランスポーズ

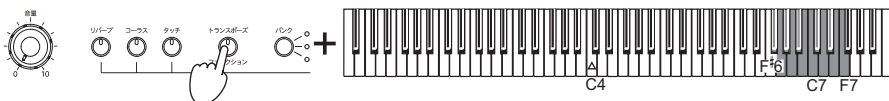
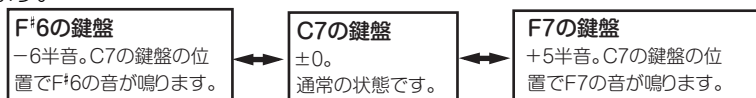
キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲ですらすことができ、1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



⚠ 電源をオフにするとトランスポーズは解除されます。

1. [トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら、F#6 ~ F7 中から移調するキーの鍵盤を押します。

- C7 以外の鍵盤を押えると[トランスポーズ / ファンクション]スイッチのランプが点灯し、トランスポーズされたことを示します。
- 押さえた鍵盤の音の高さがC7の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。
- もとの設定に戻すときは、[トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら、C7の鍵盤を押します。このとき、スイッチのランプが消灯し、トランスポーズが解除されます。



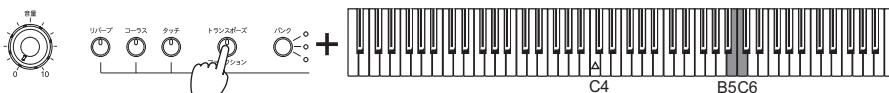
鍵盤	キーの高さ
F#6 ~ B6	6 ~ 1半音下げる
C7	標準(トランスポーズなし)
C#7 ~ F7	1 ~ 5半音上げる

ピッチ・コントロール

ピッチ(音の高さ)の微調整を行いません。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。0.5Hz ステップで± 12.5Hz(427.5Hz ~ 452.5Hz)までずらすことができます。基準ピッチは A=440Hz です。

電源をオフにすると、基準ピッチ(A4=440Hz)に戻ります。

- [トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら、B5 または C6 の鍵盤を押します。
- B5 の鍵盤を押すたびに 0.5Hz ずつピッチが下がり、C6 の鍵盤を押すたびに 0.5Hz ずつピッチが上がります。
- 基準ピッチに戻すときは、[トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら、B5 と C6 の鍵盤を同時に押します。

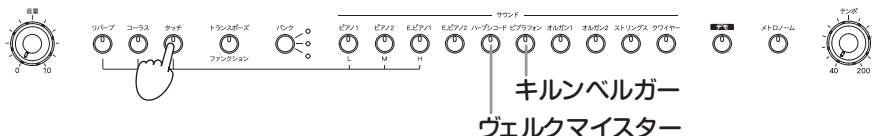


鍵盤	ピッチ
B5	押すたびに 0.5Hz 下がる
B5 + C6	基準ピッチ(A4=440Hz)
C6	押すたびに 0.5Hz 上がる

音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガーとヴェルクマイスターという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。


[タッチ]スイッチを押しながら、[サウンド]スイッチの[ハーブシコード]または、[ピブラフォン]を押します。このとき選んだスイッチのランプが点灯します。



[サウンド]スイッチ	音律
[ハーブシコード]	ヴェルクマイスター :ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターⅢ スケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。
[ピブラフォン]	キルンベルガー :18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢ スケールです。これは主にハーブシコードのチューニングに使用されます。
[ハーブシコード] [ピブラフォン] 両方のスイッチのランプが消灯	平均律 :現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

平均律に戻すときは、[タッチ]スイッチを押しながら、スイッチのランプが点灯している[ハーブシコード]または、[ピブラフォン]を押して消灯します。

[タッチ]スイッチを押しているときは、該当する音律の[サウンド]スイッチのランプが点灯します。これにより設定を確認することができます。

 電源をオフにすると、音律は平均律に戻ります。

ストレッチ・チューニングについて

[ピアノ 1]、[ピアノ 2]の音色は、ストレッチ・チューニングを用いています。

ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。これは、アコースティック・ピアノが通常調律される方法です。

MIDI

MIDI(ミディ)とは？

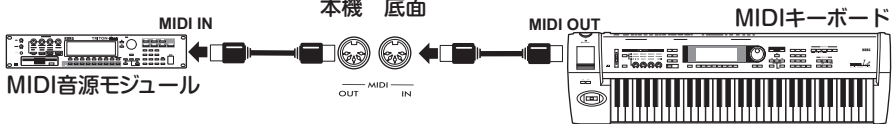
MIDI(Musical Instrument Digital Interface)は、電子楽器やコンピューターの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

MIDI でなにができるの？

MIDI を利用すると本機から他の MIDI 機器をコントロールしたり、他の MIDI 機器から本機の音源を鳴らしたりすることができます。また、シーケンサーや複数の MIDI 機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむこともできます。

MIDI の接続

MIDI 情報をやりとりするには、MIDI ケーブル(別売)を使います。このケーブルを、本機の MIDI 端子と情報をやりとりする外部 MIDI 機器の MIDI 端子に接続します。この MIDI 端子は 2 種類あります。



MIDI OUT

MIDI 情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力される MIDI 情報で、外部 MIDI 機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。

本機の MIDI OUT 端子と外部 MIDI 機器の MIDI IN 端子を MIDI ケーブルで接続します。

MIDI IN

MIDI 情報を受信します。外部 MIDI 機器 (MIDI キーボードやシーケンサーなど) で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。

本機の MIDI IN 端子と外部 MIDI 機器の MIDI OUT 端子を MIDI ケーブルで接続します。

MIDI の基本設定

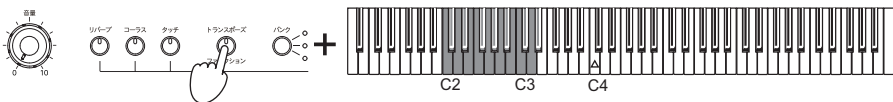
電源をオンにしたときは、本機の MIDI パラメータが送信チャンネル 1、受信チャンネルすべて受信 (1-16*)、ローカル・オン、オムニ・オフになっています。

- * 受信チャンネル 10 には、メトロノーム音 (D[#]5, E5) が割り当てられています。このため、このチャンネルでは、プログラム・チェンジを受信することはできません。

MIDI チャンネルの変更

MIDI には、データのやりとりが可能な MIDI チャンネル 1 ~ 16 があります。

電源をオンにしたときは、送信チャンネルには自動的に 1 が割り当てられます。送信チャンネルを変更するときは、[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、選ぶチャンネルが割り振られた鍵盤 C2 ~ D[#]3 の 1 つを押します。



C2=ch1、C[#]2=ch2、D2=ch3、D[#]2=ch4、E2=ch5、F2=ch6、A[#]2=ch7、G2=ch8、

G \sharp 2=ch9、A2=ch10、A \sharp 2=ch11、B2=ch12、C3=ch13、C \sharp 3=ch14、D3=ch15、D \sharp 3=ch16
 レイヤー・モードの場合、送信チャンネルを選ぶと、MIDI プログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)の小さい側のチャンネルが設定されることとなります。PC# の大きい側の送信チャンネルは、自動的に連続したチャンネルが割り当てられます。たとえば、MIDI プログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)の小さい側の音色に MIDI チャンネル 7 を割り当てたときは、PC# の大きい側の音色は自動的に MIDI チャンネル 8 が選ばれます。PC# の小さい側の音色に MIDI チャンネル 16 を割り当てたときは、PC# の大きい側の音色はチャンネル 1 が選ばれます。

マルチ・ティンバー音源として使う

本機は、内蔵音源を外部 MIDI 機器からコントロールして鳴らすことができる 16パート・マルチ・ティンバー音源として動作することができます。

1. 本機の MIDI IN 端子とシーケンサーなどの MIDI OUT 端子を MIDI ケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどから MIDI データを送信します。接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラム・ナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、プログラム・チェンジの設定がイネーブルになっているときに限ります。

ローカル・オン / オフ

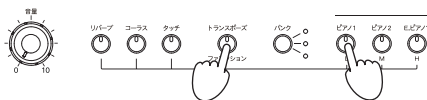
ローカル・オンでは、本機の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時に MIDI データを送信します。ローカル・オフでは、本機を弾いても演奏の音は鳴らず、データだけを送信します。通常はローカル・オンに設定します。


本機をマスター・キーボードとして使用する場合、たとえば本機を接続した MIDI 機器(キーボード、音源モジュール等)の音色で演奏するときは、本機をローカル・オフに設定します。本機は鳴りませんが、接続した MIDI 機器の音色で演奏されます。

また、本機を音源として使用する場合、たとえば本機をシーケンサーと接続して、シーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定していて、戻ってきたデータで二重に鳴るのを防ぐときは、ローカル・オフに設定します。

[トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら、[サウンド]スイッチの[ピアノ 1]を押してください。押すたびにローカルの設定がオン、オフ(消灯)をくりかえします。

設定	[ピアノ 1]のランプ
ローカルオン	点灯
ローカルオフ	消灯



 電源をオフにすると、設定はローカル・オンに戻ります。

プログラム・チェンジ


本機から MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを送信し、接続した MIDI 機器のプログラムを切り替えることができます。また、接続した MIDI 機器からの MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを受信し、本機のプログラムを切り替えることができます。プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応については、27 ページの「音色、プログラム・チェンジ・ナンバー対応表」を参照してください。

プログラム・チェンジの送信

本機で[サウンド]スイッチと[バンク]スイッチで音色を選ぶと、対応する MIDI プログラム・チェンジ・ナンバー 0 ~ 29(PC#)を送信します。

プログラム・チェンジの受信

本機で MIDI プログラム・チェンジ・ナンバー 0 ~ 29(PC#)を受信すると、対応する音色へ切り替わります。

 プログラム・チェンジ・ナンバー 30 以上を受信しても、本機の音色は切り替わりません。

音色、プログラム・チェンジ・ナンバー対応表

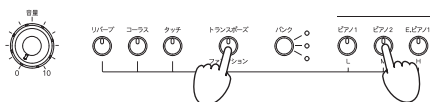
[サウンド] スイッチ	音色 (PC#)		
	バンク 1	バンク 2	バンク 3
[ピアノ 1]	グランド・ピアノ (0)	ブライト・ピアノ (1)	メロー・ピアノ (2)
[ピアノ 2]	ホンキートンク・ピアノ (3)	デチューン・ピアノ (4)	E. グランド・ピアノ (5)
[E. ピアノ 1]	クラブ E. ピアノ (6)	ステージ E. ピアノ (7)	シン E. ピアノ (8)
[E. ピアノ 2]	80' sE. ピアノ (9)	デジタル E. ピアノ (10)	ヴィンテージ E. ピアノ (11)
[ハーブシコード]	ハーブシコード (12)	クラビ (13)	ワウ・クラビ (14)
[ピブラフォン]	ピブラフォン (15)	マリンバ (16)	アコースティック・ギター (17)
[オルガン 1]	ジャズ・オルガン 1 (18)	ジャズ・オルガン 2 (19)	ジャズ・オルガン 3 (20)
[オルガン 2]	チャーチ・オルガン 1 (21)	チャーチ・オルガン 2 (22)	チャーチ・オルガン 3 (23)
[ストリングス]	ストリングス (24)	ウォーム・パッド (25)	スロー・ストリングス (26)
[クワイヤー]	クワイヤー Hoo (27)	クワイヤー Doo (28)	クワイヤー・パッド (29)

プログラム・チェンジのイネーブル / キャンセル

プログラム・チェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[サウンド] スイッチの[ピアノ 2]を押してください。押すたびに設定がイネーブル、キャンセルをくりかえします。

設定	[ピアノ 2]のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯



電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

コントロール・チェンジ

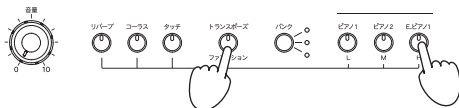
本機のダンパー・ペダルなどの情報を接続した外部 MIDI 機器に送信してコントロールしたり、外部 MIDI 機器からこれらの情報を受信して本機をコントロールします。

コントロール・チェンジのイネーブル / キャンセル

コントロール・チェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[サウンド] スイッチの[E. ピアノ 1]を押してください。押すたびに設定がイネーブル、キャンセルをくりかえします。


設定	[E. ピアノ 1]のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯




電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

MIDI データ・ダンプ

本機では音色の設定やエフェクターの設定を外部の MIDI データ・ファイラー (記憶装置) に保存し、必要なときに本機に読み込み、設定を再現することができます。

 データ・ファイラーの取扱説明書をよくお読みになり、データを消してしまわないように十分注意してください。

 データ・ダンプの実行中は、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。

データ・ダンプで保存されるのは、シングル・モード時はリバーブとコーラスの設定(オン / オフ、効果の深さ)、レイヤー・モード時は音量バランス、それぞれの音色へのダンパーのオン / オフのデータになります。

データをデータ・ファイラーに保存

1. 本機の MIDI OUT 端子とデータ・ファイラーの MIDI IN 端子を MIDI ケーブルで接続します。
2. データ・ファイラーを操作して本機からの MIDI データを受信待ちの状態に設定します。
データ・ダンプをキャンセルするときは、[トランスポーズ / ファンクション]スイッチまたは [サウンド]スイッチの[ビブラフォン]を押します。
3. 本機の [トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら [サウンド]スイッチの[ビブラフォン]を押します。それぞれのスイッチのランプが点滅し、データ・ダンプ送信待ちの状態になります。
4. [タッチ]スイッチを押します。データ・ダンプが始まり、演奏データがデータ・ファイラーに送信されます。
5. データの送信が終了すると、データ・ファイラーにデータが記録され、通常の演奏ができる状態に戻ります。
データ・ダンプ送信待ちの状態やデータ・ファイラーにデータを送信している間は本機から音は出ません。

データ・ファイラーからデータを読み込む

1. 本機の MIDI IN 端子とデータ・ファイラーの MIDI OUT 端子を MIDI ケーブルで接続します。
2. 本機の [トランスポーズ / ファンクション]スイッチを押しながら [サウンド]スイッチの[ビブラフォン]を押します。それぞれのスイッチのランプが点滅し、データ・ダンプ受信待ちの状態になります。
3. データ・ファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいた本機のデータを送信します。データの送信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください。
データ・ダンプをキャンセルするときは、[トランスポーズ / ファンクション]スイッチまたは [サウンド]スイッチの[ビブラフォン]を押します。
4. 本機がデータを受信します。
5. データの受信が終了すると、通常の演奏ができる状態に戻ります。
データ・ダンプ受信待ちの状態や、データ・ファイラーからデータを受信している間は、本機から音は出ません。

付録

故障かな？とお思いになる前に

ご使用中に問題が起こった場合は次の事項を確認してください。それでも本製品が正しく動作しない場合は、コルグ・サービス・センターへお問い合わせください。

症状	対策
電源が入らない。	ACアダプターが正しく本機とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
音が出ない。	本機のボリュームが0になっていないか確認してください。0になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。
	MIDIのローカル・コントロールがオフになっていないか確認してください。ローカル・コントロールがオフならば、オンにしてください。
	ヘッドホン端子にプラグが接続されている場合はスピーカーから音が出ません。ヘッドホン端子にプラグが接続されているときは、プラグを抜いてください。
音が途切れる。	最大同時発音数を越えています。次項の「最大発音数について」をごらんください。
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。
接続したMIDI機器が送信したMIDIデータにตอบสนองしない。	MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。

最大発音数について

本機は前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならず仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。本機の音色の中には1つの音色でも2つ以上のオシレーター（音源回路の1音分）から、構成されている音色もあります。オシレーターが1つから構成されている[ハーブシコード]などの音色は最大同時発音数が60音です。データが2つから構成されている[ピアノ1]や[ピアノ2]のバンク1、2などの音色は最大同時発音数が30音です。また、エフェクトを使用したときは、発音数がリバーブで10音、コーラスで3音ほど少なくなります。

それぞれ、音色やエフェクトの組み合わせによって使用可能最大発音数は下記の式で求められます。

(60 - エフェクト使用発音数) ÷ 音色オシレーター数 = 使用可能最大発音数

例1: [ピアノ1]のバンク1(グランド・ピアノ)を選んでリバーブをオンにした場合。

$$(60 - 10) \div 2 = 25、使用可能最大発音数 25$$

例2: [ハーブシコード]のバンク2(クラビ)を選んでコーラスをオンにした場合。

$$(60 - 3) \div 1 = 57、使用可能最大発音数 57$$

レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、ダンパー・ペダルを使用するとき、エフェクトをかけたときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

仕様

鍵盤	88 鍵(A0～C8) RH3(リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション3)鍵盤
タッチ・コントロール	ライト(軽め)、ノーマル(標準)、ヘビー(重め)
ピッチ	トランスポーズ、ファイン・チューニング
音律	平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター
音源	ステレオ PCM 音源
同時発音数	60(最大)
音色	30(10 × 3 バンク)
エフェクト	リバーブ、コーラス(各3設定)
デモ・ソング	30(10 × 3 グループ)
メトロノーム	テンポ、拍子、アクセント、音量
ペダル	ダンパー*、ソステヌート、ソフト* (*印はハーフ・ペダル対応)
接続端子	OUTPUT(L/MONO,R)、INPUT(L/MONO,R)、 MIDI(IN,OUT)、ヘッドホン×2
コントロール	パワースイッチ、マスターボリューム、リバーブ、コーラス、 タッチ、トランスポーズ/ファンクション、バンク、サウンド、 テンポ、メトロノーム、デモ
アンプ出力	25w × 2
スピーカー	13cm × 2
電源	DC 18V、AC アダプター(付属)
消費電力	20W
外形寸法	1396 × 462 × 869 mm(W × D × H) 譜面立てをたたんだ状態
質量	50kg(スタンド込み)
付属品	AC アダプター、ヘッドホン、専用スタンド

仕様および外装は、改良のため予告なく変更することがあります。

Sound Processed with INFINITY™

[サウンド]スイッチ機能一覧図

[リバーブ]、[コーラス]、[タッチ]、[メトロノーム]、[トランスポーズ/ファンクション]の各スイッチを押しながら機能が割り振られた[サウンド]スイッチを押すと、下記の表の設定ができます。

スイッチを押すと スイッチを押しながら	ピアノ1 (L)	ピアノ2 (M)	E.ピアノ1 (H)	E.ピアノ2	ハーブコード	ピブラフォン	オル ガン1	オル ガン2	ストリングス	クワイヤー
リバーブ	浅い	標準	深い							
コーラス	浅い	標準	深い							
タッチ	軽め	標準	重め		ヴェルグマイスター	キルンベルガー				
メトロノーム	2/4拍子	3/4拍子	4/4拍子	6/4拍子	標準アクセント	ベル音			メトロノーム 音量小	メトロノーム 音量大
トランスポーズ/ ファンクション	ローカル オン/オフ	プログラムチェンジ イネーブル/キャンセル	コントロールチェンジ イネーブル/キャンセル			データダンプ				

鍵盤機能一覧図

[メトロノーム]または、[トランスポーズ/ファンクション]のスイッチを押しながら機能が割り振られた鍵盤を押すと下記の図の設定ができます。[]*はMIDIノートNo.です。

**[メトロノーム]
スイッチ**

テンポの数値入力

C5 = 0 D5 = 2 E5 = 4 F#5 = 6 G#5 = 8
C#5 = 1 D#5 = 3 F5 = 5 G5 = 7 A5 = 9

メトロノームの音量
B5 = 小さく(-)
C6 = 大きく(+)
(両方を同時に押しリセット)

**[トランスポーズ/
ファンクション]スイッチ**

デモ曲開始

MIDI|キャンセル
C2 = Ch 01
...
D#3 = Ch 16

鍵盤タッチ
B3 = 軽め
C4 = 標準
D4 = 重め

ピッチの微調整
B5 = 0.5Hz下げる(-)
C6 = 0.5Hz上げる(+)
(両方を同時に押しと基準ヒッチ)

トランスポーズ
F#6...B6 = -6...-1 step
C7 = ±0
C#7...F7 = +1...+5 step

スタンドの組み立て方



● 必ず2人以上で組み立ててください。



組み立て時の注意

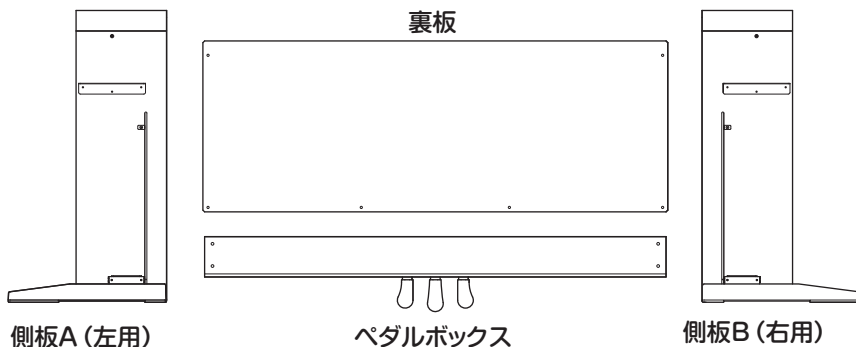
正しく安全に組み立てるためには、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順通りに組み立ててください。
- ・ デジタル・ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

組み立て方法

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

1. 下記がすべてそろっていることを確認してください。



ビニール袋詰め

ネジa (M6 x 20)

...4本



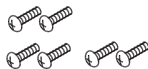
コードホルダー

...2本



ネジb (M4 x 14)

...6本



本体固定ネジ...2本



キャップ

...4個

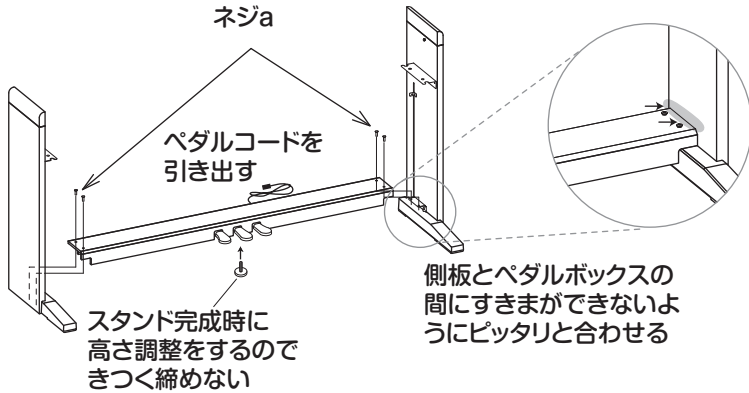


アジャスター

...1個

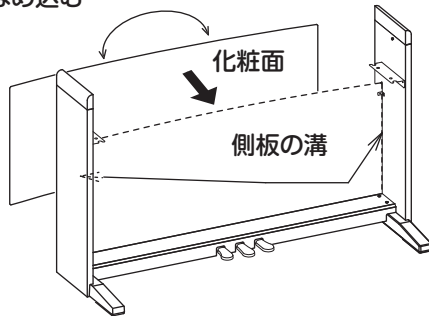


2. アジャスターをペダルボックスに最後までねじ込み、ペダル用コードを取り出します。
 ネジ a で、側板をペダルボックスに固定します。
 側板とペダルボックスの間に、隙間ができないように取り付けてください。



3. 化粧面(木目)が前面を向くようにして、裏板を少したわませて(湾曲させて)側板の溝にはめ込みます。

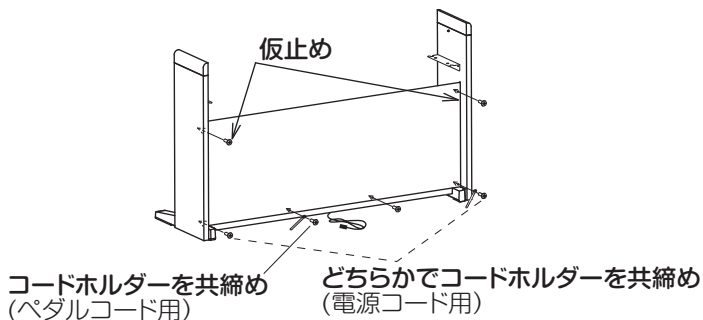
裏板を少したわませながら
 側板の溝にはめ込む



4. ネジ b で、裏板を固定します。

先に裏板の下側(4か所)を止めます。2か所にはネジにコードホルダーを通し、スタンドに共締めします。右側または左側に共締めするかは、コンセントの位置を考えて決めてください。

そのあとで裏板の上側(2か所)を止めます。この部分のネジは本体を取り付けた後に、調整に使うので仮止めにしてください。



5. スタンドに隙間や傾きがないことを確認し、仮止めしている2本のネジ以外のすべてのネジをしっかりと固定してください。

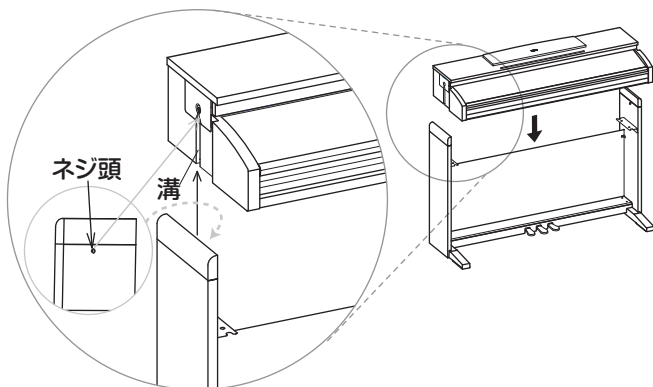
6. 本体を取り付けます。

左右のスタンド側板内側に飛び出しているネジ頭を、本体左右側面にある金具の溝の中にもぐり込ませるように本体を水平に保って、ゆっくりと下ろします。正しく取り付けくと、スタンド側板のネジが本体の金具の溝に収まり固定されます。

スタンドの側板を、本体側に体で押し付けるようにしながら、本体を水平に保って下ろすように取り付けると、比較的容易に取り付けることができます。

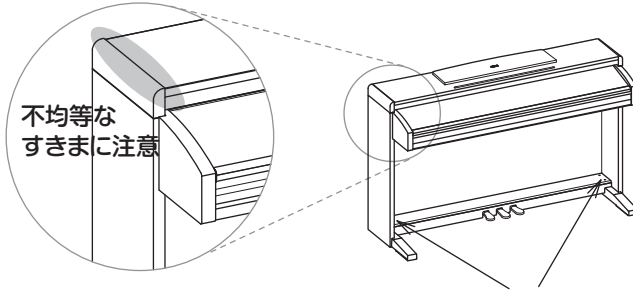
▲ 手を挟まないように、また下に落とさないように、本体を左右同時に水平に下ろしながら、ゆっくり行ってください。

▲ 側板はキズが付きやすいので注意して取り付けを行ってください。



7. 本体上面とスタンドの側板上面に不均等な隙間ができて無いことを確認します。

隙間が気になるときは、側板とペダルボックスを止めてあるネジ a を緩めて調整します。

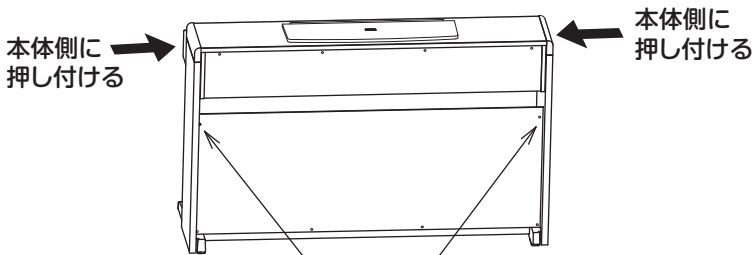


不均等なすきまが気になるときは、それぞれのネジaを緩めて調整。

本体とスタンドの側板の隙間が著しく広い場合や、隙間が均一にならない場合は、正しく取り付けしていない可能性があります。そのような場合には必ずもう一度、本体全体を持ち上げて取り付け直してください。

⚠ 片側だけ持ち上げて作業を行うと、大変危険なだけでなく、本体の金具を破損してしまう恐れがあります。必ず本体を左右同時に水平に上下させてください。

8. スタンドの上部を押しながら、仮止めしてあった裏板のネジ2本を締めます。

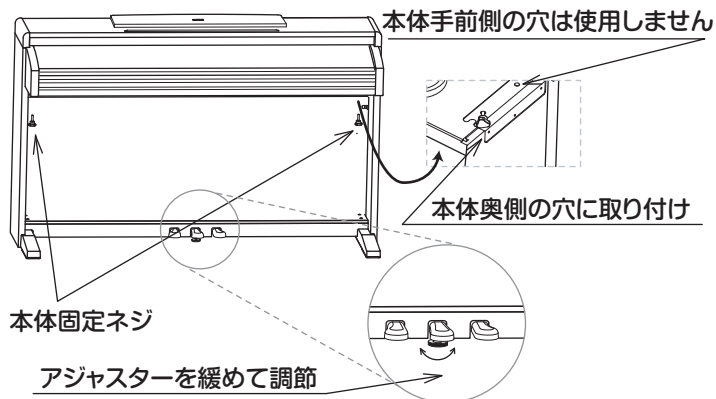


左右の側板を外側から押しながら、2か所のネジを強く締める。

9. 本体固定ネジで、本体底面下方から固定します。

その後、アジャスターを緩めて、アジャスターが床にしっかり当たるように調節します。

- ▲ アジャスターが床にしっかり当たらないと、ペダルがぐらつき故障の原因になります。



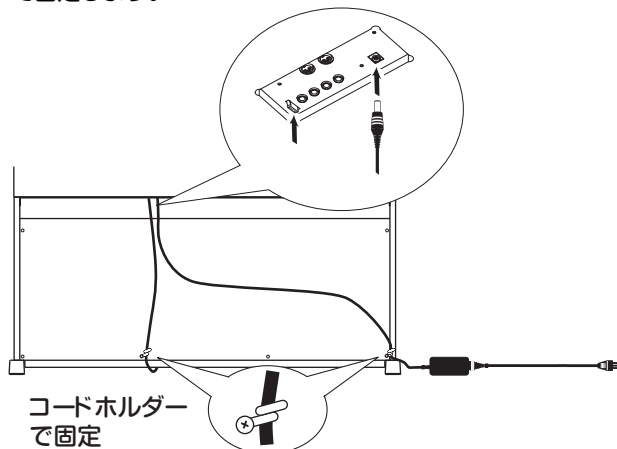
すべてのネジがしっかりと締まっていることを確認してください。
最後にペダルボックスのネジ a のネジ頭にキャップをかぶせます。

- 10.AC アダプター本体に、付属の専用電源コードを接続します。

ACアダプター本体



- 11.ペダルコードと AC アダプターの DC プラグを本体の底面に接続し、各コードをコードホルダーで固定します。



- ▲ ペダルコードの接続時は、コネクターの向きに注意してください
- ▲ デジタル・ピアノを設置するときは、スタンドが AC アダプターのコードを踏まないように注意してください。

組み立て後のチェック

部品は余っていませんか？

部品が余ったときは、組み立て手順をよく見て、それらがどこで使用される部品なのかを確認してください。

すべてのネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- **ネジの緩みについて**

組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合は、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときは、ネジを締め直してください。

- **設置場所を移動するとき**

デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「スタンドの組み立て方」に従い、組み立て直してください。

- **分解について**

スタンドを分解するときは、組み立て時の逆の順番で行ってください。分解後は、ネジなどの部品をなくさないように保管してください。

MIDIインプリメンテーションチャート

2009.2.10

ファンクション...	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	1 1-16	1 1-16	
モード	× *****	3 ×	
電源ON時 マッセージ 代用	× *****	×	
ノート ナンバー:	15-113 *****	0-127 21-108	
ペロシテイ:	○ 9n, V=1-127	○ 9n, V=1-127	
アフタータッチ:	×	×	
キー別 チャンネル別	×	×	
ピッチ ベンダー	×	○	
コントロール チェンジ	7 11 64 66 67	○ × ○ ○ ○	ボリューム *1 エクスプレッション *1 ダンパーペダル *1、*3 ソステヌートペダル *1 ソフトペダル *1、*3

91 93 120, 121	リバーブ コーラス オールサウンドオフ、 リセットオールコントロール	○ ○ ×	○ ○ ○	○ ○ ○	*1 *1
プログラム チェンジ： 設定可能範囲		○0-29 *****	○0-29 0-29	○0-29 0-29	*2
エクスクルーシブ		○	○	○	デバイスインクワイアリー、サウンドデータダンブ
コモン：	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	× × ×	
リアルタイム：	クロック コマンド	× ×	× ×	× ×	
その他：	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	× ○ ○ ×	○ × ○ ×	○ × ○ ×	*4
備考	*1:コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *2:プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *3:ハーフペダルの出力値(0, 38, 74, 127)。 *4:レイヤー・モードから、シングル・モードに戻るときと、ローカル・オフにしたとき送信する。				

モード1: オムニオン、ポリ

モード2: オムニオン、モノ

○: あり

モード3: オムニオフ、ポリ

モード4: オムニオフ、モノ

×: なし

MIDI IMPLEMENTATIONの配布については、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな？とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

修理についてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03 (5355) 5056

●サービス・センター： 〒168-0073東京都杉並区下高井戸1-15-12
TEL 03(5355)3537 FAX 03(5355)4470

KORG 株式会社コルグ

本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

<http://www.korg.co.jp/>